児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和　6年　2月　24日　　事業所名　あいわの里子ども療育センター

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	88.0%	12.0%	・利用人数等により部屋割りなど工夫している。 ・ホールが広々としている。	・年少々グループの部屋は、介助率が高い日には大人も多く入るため狭いように感じる。 ・音の影響が大きいため、パーティションでない部屋が欲しい。 **活動部屋の配置については利用児数だけでなく、補助職員を含めた総数で考えるよう努める。改築などについては収支の状況に合わせて検討し、消防や建築基準法等の防災に適応できるように進めていく。**
	2	職員の配置数は適切である	68.0%	32.0%	・休みなどで不足する場合は、活動内容の変更や他部署からのフォローなどで対応している。 ・足りない時もあるが声をかけ合ったり、介助などに工夫をして対応している。 ・今年度は配置が増えている感じがする。	・人数としは足りていると思うが、正職員とパート職員の割合が適切なのかどうか。職務内容など検討が必要。 ・離職や病欠などで応援をもらう場合に、午後担当の職員負担がかかり、偏りがあるように思う。また、余裕がなくなる時がある。 ・直接支援が必要なグループでは人が足りないと思うが、経営を考えるとただ増やせばよいということでもないため難しいと思う。 **配置基準では加配以上の配置となっており充足されているが、支援度や病欠などにより部分的な負担がかかっているものと思われる。欠員などへの対応はこの2年程充足も図れているため、専門職との協力体制の在り方などの見直しを行っていく。**
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	72.0%	28.0%	・建物の使いづらさ(パーティション等)あるが、工夫をして使っている。 ・ドアの開閉時には気を付けるようにしている。 ・手洗いなど子どもたちには手が届かない環境があるが、ステップを使ったり工夫している。	・活動部屋のドアが開き戸で、引き戸への変更が安全面を考えて必要と思われる。 ・死角が多い。 ・専門職との空間が共有できないため、連携には意識付けが必要な状況。 ・バリアフリーだが動線がよくないと感じる。 **ドアについては数年の課題となっているが、項目1でも説明した中で合わせて進めていくよう検討していく。**
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	88.0%	12.0%	・子どもたちとしては開放的で清掃もされ気持ちのいい空間と思われる。 ・白が多いため清潔感は感じられると思う。	・倉庫内や敷地など目に入りにくいところへの環境改善に課題がある。 ・トイレや洗面所の動線が悪い。 ・1グループ居室は出入りが自由にできてしまうため、活動から外れてしまった場合に見守りの職員が必要となっている。 **居室管理についてはドアの応用対応を検討していく。倉庫内や敷地内の意識しにくいところは煩雑となりやすいため、整理整頓の日を決めて対応していく。**
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	72.0%	24.0%	・スタッフの机配置もグループでまとまりやすくし、日々の意見交換や支援内容などを話しやすく工夫している。 ・週1回全体で情報共有できるよう会議を実施している。	・実施していることが多いが、受動的になっている部分が多い。 ・十分な時間の確保ができないこともある。 ・意見が出にくいことが多いので、工夫が必要。 ・目標設定など自身でできていないこともあり、協力不十分に感じているところがある。 **職員会議の在り方や意見の抽出に関しての工夫などを行い、アサーティブな環境となるように努めていく。**
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	88.0%	8.0%	・集計され伝えられている。 ・すぐに可能なことは取り組み、時間の必要なことは保護者へ説明するようにしている。	**事業所自己評価として出てきていないが、ご家族様評価として見える化に対する不足が散見される。気づきのフィードバックや支援の様子の可視化などに取り組んでいく。**
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	76.0%	20.0%	・集計され伝えられている。	・ホームページについては様々な方に見られている意識が必要であり、見栄えや記載内容などスタッフ間でも認識の共有をしながら更新する必要がある。 **現在見直しを行っている。担当者のみで作成する意識でなく、全体で見える化発信の意識を持つためにR5年度内の見直し完了を図っていく。**
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	52.0%	40.0%		・正式な第三者評価は行っていない。第三者の施設訪問は多くあり、その都度確認している状況。 ・バイザーなどを入れていない。 ・分からない。 **地域での第三者評価の仕組みづくりなどネットワーク会議での検討課題として提案しシステム作りを進めていく。**
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	92.0%	8.0%	・新型コロナ対策の自粛などが終わり、少しずつ呼びかけなど増えてきているように感じる。	・パート職員の行きやすい研修もあったほうが良いと思われる。研修参加に偏りがあるように感じる。 **特に研修参加に偏るような仕切りは設けていない。内部研修の在り方など検討を行っていくが、主体的な参加に職員意識を高めていく必要がある。**
	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	96.0%	4.0%		・時間がない時にはしっかりと作り込みができていないと感じることもある。 **計画策定に関し業務との切り離しを検討し、集中しやすい環境を整えていく。**

適切な支援の提供	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	92.0%	8.0%	・心理職員やセラピストなど専門職員のツールや個別評価を共有し支援を行っている。	・標準化したツールは使用していない。 **定期的なアセスメント内容の見直し、標準化ツールの検討を行う機会を設ける。**
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	88.0%	8.0%	・具体的な支援状況や内容がご家族様へも分かり易いように努力して作成している。 ・相談支援専門員の計画書を確認し、不十分な場合は訂正を入れるようにしている。	**計画作成に直接かかわらない職員についても、計画の確認や内容理解を深め日々の支援やご家族様の大切にしていることなどに意識を向けていけるように継続して取り組んでいく。**
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	92.0%	8.0%		・個別、当該グループ、他グループ、利用児全員毎日となると難しさを感じるが、より充足するために内容の濃い振り返りが必要と感じる。 **まずは個別及び担当グループ内で集中して取り組んでいくように意識する。他グループや全体的な状況については、切り離しを行って児童発達支援管理責任者主体として取り組んでいく環境を作っていく。**
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	88.0%	12.0%	・担任と副担で大筋をまとめ、チームで肉付けを行うようにしている。	・できる時には自分でも実施していきたいと思っている。 ・担任に任せてしまっている。 **グループのビルディングについて研修を行い、各職員が主体となり主人公となれる仕組みを検討・実践していく。**
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	88.0%	12.0%	・話し合いの場を設け、様々な工夫を感じられる。	・支援者の苦手な制作を避けている部分もあるかもしれないため、工夫が必要と感じる。 **経年によるルーティン化もあるため、KJ法やブレインストーミングなどにより工夫発掘への取り組みを行う。**
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	96.0%	4.0%	・必要に合わせて作成している。	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	68.0%	32.0%		・おおよその方向性など事前に話し合っているが、開始前は送迎やパート職員の出勤時間のズレなどで毎回は難しい。 **確認のポイントなどSNSツールなども活用して取り組めるよう環境を整える。**
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	96.0%	4.0%	・全職員が協力して送迎を行うため、話す時間も作れていると感じる。 ・色々な場面での気づきを確認し楽しく行っている。	・業務により難しい時もある。 **上記項目と同様に取り組んでいく。**
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100.0%	0.0%	・全職員が役割分担を行うため、話す時間も作れていると感じる。 ・気づきをまとめている。	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	100.0%	0.0%	・成長や変化に合わせて変更を行っている。	
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100.0%	0.0%	・担当が参加するようにしている。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	96.0%	0.0%	・連携を図るために定期のカンファレンスを実施している。	**ご家族様や関係機関への見える化については他の項目同様に発信できるように取り組みを進めていく。**
	23	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合）地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	76.0%	20.0%	・保育園、家庭、関係機関などとは直接情報共有を行えているが、医療機関と直接的な連携は少なく、家族を通して行っている状況。	・直接的な連携は少なくなった印象がある。 **地域の関係機関との連携について、地域のマンパワー不足から連携を図りにくい環境もあるため、オンラインを活用した取り組み等についてネットワーク会議での検討議題として進めていく。**
	24	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合）子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	60.0%	32.0%	・家族を通して行っている。	・医療的ケアの状況や程度により、連携を図る質が変化すると思うため、療育においてもその状況によりアプローチを考える必要があり大切と思われる。 ・主治医との連絡体制が整っているか分からない。 **ご家族様を中心に連携に努めていき、協力医療機関とは直接的な連携を構築しているが、相談しやすい環境となるよう関りをもっていくよう努めていく。**
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	96.0%	0.0%	・定期や必要時に合わせて支援会議を行っている。	・連携を求めても難しい事業所もあるため、必要性をどのように理解してもらえるかも課題と思われる。 **見える化による発信を意識して取り組むことで関係性の向上を図っていけるよう取り組んでいく。**
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	92.0%	4.0%	・公開療育実施や就学後の個別相談や会議など参加し共有を図っている。	**公開療育や就学を考える会等の中で情報共有を図っている。今後も継続し、保育所等訪問支援などとの活用や連携なども視野に入れて検討していく。**
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	52.0%	28.0%	・児発管が代表して参加している。研修会なども準備して開催している。	・児童部会での検討事項や進捗などについて年に数回でも話を聞ければと思う。 ・分からない。 ・情報共有など実施しているが、連携とまではいえないと感じる。 ・関われていないことが多く、連携までできていないと感じる。他の施設に見学に行ってみるなど、学びを得たいと感じる。 **ネットワーク会議等を通して意見交換できるものもあるが、オンラインなど情報交換ができやすい環境づくりに向けて議題提供し検討を進めていく。**

	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	12.0%	76.0%		・新型コロナなど感染対策もあり、実施を控えている。 ・両者に余裕がなければ取り掛かることが難しいと思われる。 ・並行通園していない子どもたちは機会がないように感じる。 **並行通園をされていないお子様を主として、交流機会を持てる取り組み等について特別支援教育連携協議会などを通して共有・検討を進めていく。**
	29	（自立支援）協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	68.0%	24.0%	・児発管が代表して参加している。	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	92.0%	4.0%	・日常的には難しいが、何かあれば個別に連絡を取るなど行い共通理解を図るようにしている。 ・送迎時や連絡帳、時に電話で共有する機会を作っている。	・日々連絡帳などを用いて行っているが、利用状況についての発信力が不十分と思われる。 ・細かいところまで伝えられていない部分がある。 **気づき記録についてもご家族様へ提供し、共通理解を深める。また、支援会議等では継続して細かな部分を説明していけるよう取りまとめていく。**
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている	52.0%	44.0%	・ペアトレなど標準化手法は用いていないが、個別相談や家族会などを通して家族支援を実施している。 ・必要なご家族様へ個別に実施している。	・分からない。 **個別のご家族様支援は実施しているが、標準化手法について知見を深められていない。研修等を通してより深い支援が行えるように取り組んでいく。**
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	76.0%	16.0%	・児発管により説明をしてもらっているので、最近直接的には実施していない。	・分からない。 **運営規定につて職員会議などでも触れる機会を作り共通理解を図る。**
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	88.0%	4.0%	・個別支援会議等で同意を得ている。 ・計画内容の変更がある場合は説明を行い、足りない点は訂正を行い対応している。	**支援に合わせ計画の説明と同意は行っている。流れ等について職員会議等で共通理解を深めていく。**
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	76.0%	12.0%	・支援会議や保護者茶話会などで支援している。必要に応じて個別相談の場も設けている。	・対応しているが、答えが不十分と感じることもある。 **子どもの発達に関する知見を深めつつ、OJTによりロールプレイなどを活用してより適切に対応できるよう進めていく。**
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	84.0%	12.0%	・保護者茶話会の中で保護者同士の繋がりをサポートしている。 ・親子活動や療育参観後の触れあいの時間など交流機会を作っている。	・父母の会自体は実施できていない。 **ご家族様支援の中では家族茶話会により支援を行っている。感染対策を行いながら親子活動など少しずつ交流機会の図れる活動等の設定を行っていく。**
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	96.0%	0.0%	・様々な案件があり、必要な部署が必要に応じて対応していると思う。 ・上司に相談して対応。	**相談など要望のある場合には迅速かつ丁寧に対応させていただいている。今後も継続できるよう職員の質向上やマンパワーの確保に努めていく。**
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	88.0%	8.0%	・月に1回のびのびだよりを作成し発信している。	**継続的にお便りを作成しお渡ししている。継続して見える化の推進を図っていく。**
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	92.0%	4.0%		**今後も内部研修で啓発と意識付けに取り組んでいく。**
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	96.0%	0.0%	・配慮が必要な場合にはサインや言葉を分かりやすくなど工夫している。	**専門職等によるサインに関する研修や保護者の心理側面などについて寄り添った意識が定着できるよう研修を行っていく。**
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	36.0%	56.0%		・新型コロナなど感染対策もあり、行事などについて招待などは行えていない。 **コロナ禍により実施できていなかったが、小さな活動から地域の方を招待できる企画を進めていく。**
非常時等の対	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	80.0%	16.0%		・スタッフ及び保護者様への周知が不十分と考えている。 ・実施されているが不十分と感じる。 ・研修などで実施するなど工夫が必要。 ・災害だけでなくミサイルや緊急避難警報など想定した訓練を実施した方がよいと思われる。 **策定しているが、読み合わせや訓練などが不十分な側面もあり、職員会議等を通して定期的に共有化を進めていく。**
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100.0%	8.0%		・実施されているが不十分と感じる。 ・救出の訓練は実施不十分と思う。 ・火災訓練だけでなく、地震想定や不審者対応など充足する必要を感じる。 **避難訓練中心の対策となっているため、不審者対応訓練や地震時の被害想定をしたトレーニングを実施していく。**
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	88.0%	12.0%		・変更等あった場合に全体に共有する機会を持つ必要を感じる。 **職員会議において医務を中心に情報共有を実施していく。**

対応	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	96.0%	0.0%		**対応は同上であるが栄養士を含め実施する。**
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	92.0%	4.0%	・職員会議で共有したり、インシデントを共有する機会を作っている。	**インシデントの共有機会は職員会議だけでなく供覧などで定着しつつある。継続的に実施し、大きな事故の防止に向け取り組んでいく。**
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	96.0%	4.0%	・研修による学習に加え、毎週の会議内で処遇状況に問題がないか相互確認を行っている。	**虐待防止・人権擁護・身体拘束委員会を中心に、施設間相互であり方や見直しなどを行い、研修や意識付けに繋げていく。**
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	80.0%	16.0%	・現在拘束対応は1件も実施していない。 ・対象はいないため支援計画には記載していない。	**同上で取り組んでいく。**